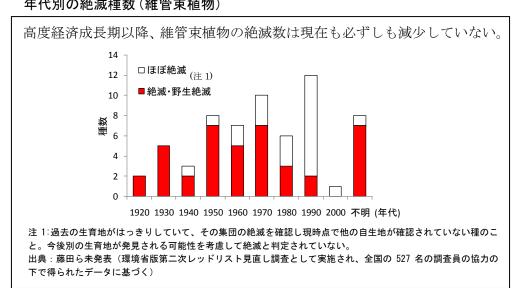
第 1 の危機:人間活動や開発が直接的にもたらす種の減少・絶滅や生息・生育 空間の縮小、消失

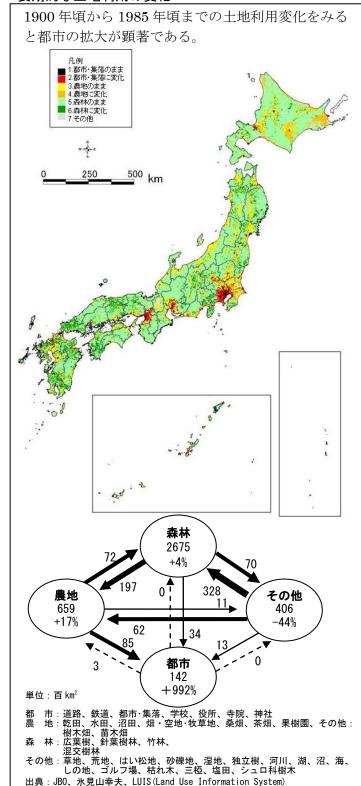
- ●高度経済成長期における開発・改変は、過去50年間で最大の生物多様性の損失要因である。
- ●自然性の高い森林、農地、湿原、干潟といった生態系の規模が著しく減少した。
- ●大規模な開発は少なくなっているが、小規模な開発や地域的な開発は依然として見られる。
- ●様々な対策が講じられているが、過去に生じた大きな損失は回復していない。

絶滅危惧種の減少要因 開発が絶滅危惧種の主な減少要因となっている。 哺乳類 爬虫類 0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100% 開発 開発 水質汚濁 水質汚濁 捕獲•採取 8% 捕獲•採取 56% 遷移等 2% 遷移等 外来種 外来種 67% 両生類 汽水•淡水魚類 0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100% 開発 開発 水質汚濁 水質汚濁 捕獲•採取 捕獲•採取 32% 29% 遷移等 遷移等 外来種 21% 外来種 25% 維管束植物 20% 40% 60% 80% 100% 開発 水質汚濁 3% 捕獲•採取 24% 遷移等 28% 出典: JBO、環境庁、環境省、改訂・日本の絶滅のお 外来種 それのある野生生物レッドデータブック

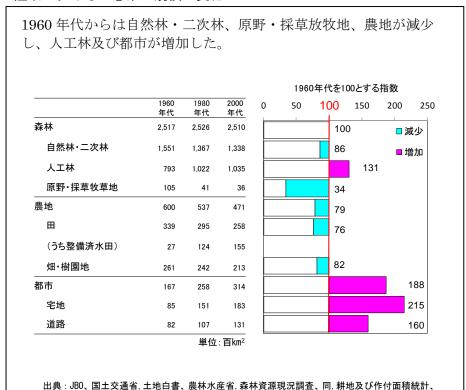
年代別の絶滅種数(維管束植物)



長期的な土地利用の変化



陸域における生態系の規模の変化



同,土地利用基盤整備基本調査、同,農用地建設業務統計調査

陸水域・沿岸域における生態系の規模の変化

